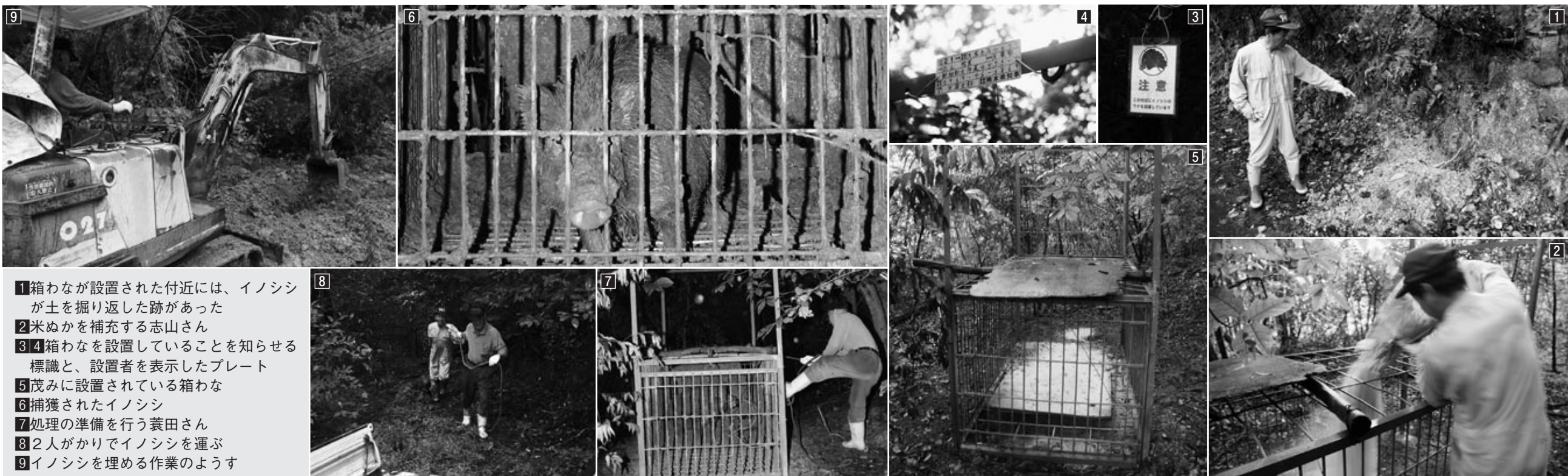


捕獲対策

イノシシが捕獲・処理されるまで



- 1 箱わなが設置された付近には、イノシシが土を掘り返した跡があった
- 2 米ぬかを補充する志山さん
- 3 4 箱わなを設置していることを知らせる標識と、設置者を表示したプレート
- 5 茂みに設置されている箱わな
- 6 捕獲されたイノシシ
- 7 処理の準備を行う蓑田さん
- 8 2人がかりでイノシシを運ぶ
- 9 イノシシを埋める作業のようす

Voice ～声～



天草市有害鳥獣対策協議会捕獲隊
志山哲美隊長
(新和町大多尾・60歳)

活動範囲が平野部まで広がっている

イノシシの捕獲を15年前から行っています。以前は、箱わなを山間部に設置することが多かったのですが、最近では平地に設置することも多くなりました。それだけ、イノシシの活動範囲が平野部まで広がっているんだと思います。捕り続けても一向に減らないイノシシですが、地道に捕獲を続けていかなければならないと考えています。

「志山さんの私有地へ移送」
その後、イノシシの殺処理を行い、車に載せて志山さんの私有地へ移送。捕獲したイノシシは適切に処理する必要がありますが、今回は周囲の環境衛生に影響がない志山さんの私有地に埋めるとのことだ。
周囲は川や民家がない、山中の私有地。あらかじめ置かれていた重機を使って1メートルほど掘り、その中にイノシシが埋められた。
「この場所は、捕獲隊員仲間7人が共同で使っているん

です。この重機もみんなで購入しました。今日埋めたイノシシの近くに、草が立てられているでしょ。あれはこの付近にイノシシを埋めましたよ、という目印なんです。だから、そこは避けるようにして埋めるようにしているんです」と志山さんは話した。
「処理にかかった時間は1時間あまり」
イノシシの処理にかかった時間は、1時間あまり。お2

人ともに、これまでに数百頭のイノシシを捕獲・処理してきたとあって、スムーズに行われた。
ただ、降りしきる雨の中、想像していた以上に過酷な作業。特にイノシシの捕獲よりも、その後の処理がたいへんであると感じた。
志山さん、蓑田さんのお2人は、それぞれ仕事の合間をぬって、捕獲・処理の業務にあたっている。捕獲隊員としての熱い使命感を胸に、取り組んでいらっしやると感じた。

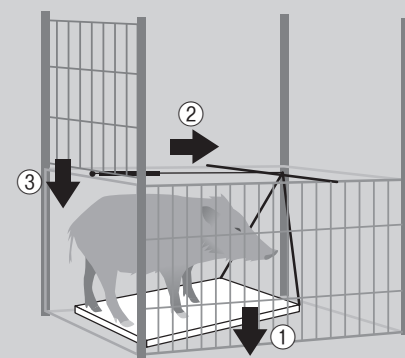
志山さんは、地元の新和町大多尾・天附地区が主な担当。地区内には常時、10基の箱わなを設置している。8月30日、この日はイノシシが箱わなにかかっているかどうかの見回りを行う日。まずは、山中の農道沿いの茂みに設置された箱わなを確認。周囲にはイノシシが活動した形跡があるものの、イノシシはかかっていなかった。降り続く雨の影響で、イノシシを誘うためのエサとなる米ぬかがなくなっており、志山さんは箱わなに米ぬかを補充した。
その後、ひと通り見回りを行うも、イノシシはかかっていなかった。「すぐに入るときもあれば、1カ月も2カ月も入らない」

「イノシシが入っていたぞ！」
見回りを実施して5日後の9月4日昼ごろ、志山さんからイノシシが箱わなに入ったと連絡があった。かかっていたのは、先日の見回りの最初に訪れた箱わなとのことだ。処理の準備を済ませた志山さんと落ち合い、捕獲現場へ。現場に着くと、捕獲隊員仲間の蓑田則行さんがひと足先に到着していた。車から降りると、イノシシ特有のにおいが漂っていた。箱わなに視線を移すと、暗がりの中、イノシシがうごめいているのがわかった。体長80センチメートル、約60キログラムのオスのイノシシ。かなり暴れたのか、泥だらけになっていた。

箱わなのしくみ

今回、イノシシが捕獲された箱わなのしくみを紹介します。

材質：鉄製
サイズ：縦2m・横1m・高さ1m



- ①イノシシが踏み板に乗る。
- ②ワイヤーが引っ張られる。
- ③ゲートにほんのわずかに乗っているストッパーがはずれ、ゲートが落ちる。

